

学校教育目標	○かしこく ◎やさしく ○つよく	ビジョン	【目指す学校像】	・子供にとって安全・安心の学校 ・保護者や地域とともに子供を育てる学校 ・教職員が互いに高め合う学校
			【目指す児童・生徒像】	・よく考え工夫する児童 ・相手のことを考え、助け合う児童 ・明るく元気な児童
			【目指す教師像】	・質の高い指導を創造できる教師 ・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師 ・児童、保護者、地域に貢献する仕事であることを自覚する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。	①「問題解決の型」の徹底 ②「学習スタンダード」の徹底 ③朝学習の週5回実施 ④ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった	4	4 児童アンケートで「主体的に学習した」が8割以上 3 児童アンケートで「主体的に学習した」が7割以上 2 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割以上 1 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割未満	4	11月の調査で主体的に学習したと回答した児童は92.4%となり、1学期より20ポイント以上、上昇した。	1学期より20ポイント以上アップしたことは素晴らしいことである。	A	高学年を中心に教科担任制を推進し、専門性を高めた教科指導を行う。
		授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業 ④本領発揮プログラムの活用	4 ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。	4	4 児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上 3 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上 2 児童アンケートで「分かりやすい」が6割以上 1 児童アンケートで「分かりやすい」が6割未満	4	全ての学級でユニバーサルデザイン化を推進し、児童アンケートで「分かりやすい」が91%となった。	誰にでも分かりやすいユニバーサルデザインの取組は評価できる。	A	本領発揮プログラムをはじめとする具体的方策の一層の徹底を推進していく。
		タブレットPCの積極的な活用とキャリア教育の推進	①プログラミング学習に関わる授業(年5回以上) ②キャリア・パスポートに関わる指導(年3回) ③オンライン授業(年3回)	4 全ての教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 3 8割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 2 7割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 1 6割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。	4	4 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が8割以上 3 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が7割以上 2 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が6割以上 1 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が6割未満	4	年3回のオンライン授業を実施した。アンケートでは84.3%の児童が肯定的な評価であった。	タブレットの活用をさらに推進してほしい。プログラミング推進も期待したい。	A	引き続きタブレットPCの積極的活用を推進する。
豊かな心	学校全体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	児童の自己肯定感を高め、個々の良さを発揮できるように、学級活動を実施する。	①校内研究の推進 ②生活スタンダードの徹底 ③QUTテストの活用	4 全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4	4 QUの結果で安定感のある学級が3割以上 3 QUの結果で安定感のある学級が2割以上 2 QUの結果で安定感のある学級が1割以上 1 QUの結果で安定感のある学級が1割未満	4	12学級中6学級が安定感のある学級であった。生活スタンダードの徹底により、学校がとても落ち着いている。	心身ともに成長する6年間、学校生活を通じて情緒を大切に育んでもらいたい。	A	具体的方策の継続と共に挨拶運動の強化を行い、豊かな心の醸成に努めていく。
		教育活動全体を通して、道徳的实践力を身に付けさせる。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③児童が考え議論する道徳	4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した	4	4 児童アンケートで「学校が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「学校が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは90.4%の児童が「学校は楽しい」と回答している。1学期に道徳の評価に関するOJT研修を行った。	道徳を学校生活に結び付けていく細やかな指導に期待している。	A	児童が考え議論する道徳を推進する。
		学校図書館を活用し、読書の啓発に取り組む。	①学校図書館の利用(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③人権教育を推進する図書購入	4 全ての学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 3 8割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 2 7割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 1 6割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。	3	4 8割の児童が年間20冊以上の本を借りた 3 7割の児童が年間20冊以上の本を借りた 2 6割の児童が年間20冊以上の本を借りた 1 年間20冊以上の本を借りた児童が6割未満	4	12月末時点で、一人平均25冊以上の本を借りた。	タブレットを使って電子図書を活用すると高学年の読書も増えるのではないか。	B	全体として図書館利用は順調であるが、高学年の貸出冊数が少ない傾向が続いている。高学年への働きかけを強化する。
健やかな体	学校全体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進める。	①体力向上プラン(9月改訂) ②コロナ禍でも可能な運動の推進 ③運動週間(年3回) ④本領発揮プログラムの活用	4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行った 3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った 2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った 1 7割未満の教員がプランを活用した指導を行った	4	4 児童アンケートで「運動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「運動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは81.8%の児童が「運動は楽しい」と回答している。	楽しいと感じていないおよそ2割の児童に楽しいと感じさせる取組に期待します。	A	体力向上プランを作成し、体力テストの課題に沿った系統的な指導を行っていく。
		日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	①元気アップカードの活用 ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行った 3 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 2 7割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 1 7割未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った	4	4 7割以上の児童が目標を達成している 3 6割以上の児童が目標を達成している 2 5割以上の児童が目標を達成している 1 5割未満の児童が目標を達成している	4	元気アップカードを活用した指導を実施し、10月16日に学校保健委員会開催した。	中休みの有効利用や教師の声掛けなど工夫を感じる。更なる取組の推進を期待したい。	B	元気アップカードの活用の徹底を引き続き指導していく。
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育む。	①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日の指導(年11回)	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行った 3 8割の教員が、安全指導を計画的に行った 2 7割の教員が、安全指導を計画的に行った 1 6割の教員が、安全指導を計画的に行った	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	避難訓練の改善を行い、警察と連携した不審者対応訓練や管理職不在時を想定した訓練を行った。	中休みや多くの教員に周知しない訓練は緊張感があり効果的であった。	A	引き続き具体的方策の徹底を図っていく。
輝く未来	学校全体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育む。	①学級会活動(年10回以上) ②課題解決型学習の重視 ③タブレットPCの活用	4 全ての学級が、タブレットPCでの意見共有を行った 3 8割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行った 2 6割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行った 1 タブレットPCでの意見共有を行った学級が6割未満	4	4 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートで94.1%の児童が「話し合い活動が楽しい」と回答した。タブレットPCの活用OJTも1学期に実施している。	話し合い活動が楽しいという評価が出ているのは素晴らしいと思う。	A	全ての学級がタブレットPCでの意見共有の授業を行うよう、引き続きICT活用推進に努める。
		教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	①各学年で外部人材を活用した授業を計画 ②コロナ禍においても実現可能な交流プログラムの作成	4 全学年で外部人材を活用した授業を実施した 3 8割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した 2 6割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した 1 外部人材を活用した授業を実施した学年が6割未満	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	3	全学年で外部人材を活用した授業を行うことができている。	外部人材はもちろん内部の人材もしっかり活用できているのが素晴らしい。	A	引き続き具体的方策の徹底を図っていく。
		保護者や地域と連携し、行事活動を充実させる。	①PTAや地域と連携して運動会・学習発表会・研究発表会を行う。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動の強化を行う。	4 PTAや地域と年4回以上の連携ができた。 3 PTAや地域と年3回以上の連携ができた。 2 PTAや地域と年2回以上の連携ができた。 1 PTAや地域との連携は年2回以下だった。	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	PTAと順調に連携を進めることができている。地域のお祭りも復活しつつある。	できることから無理せず、徐々に楽しく地域と活動してほしい。	A	引き続き具体的方策の徹底を図っていく。